

平成 28 年度 (H28シカ年度) 実行計画の実施結果

H28シカ年度実行計画(管理事業)一覧

管理手法	遺産地域		隣接地域	
	エゾシカA地区	エゾシカB地区		
防御的手法		<p>■ 特定管理地区(知床岬)</p> <p>■ 既存の侵入防護柵の維持・補修 概要: 既存侵入防護柵の巡視及び補修 場所: 知床岬 事業時期: 通年 実施主体: 環境省、林野庁 (既存侵入防護柵) ・亜高山高茎草本群落(20m×20m) ・ガンコウラン群落(15m×15m) ・山地高茎草本群落(エオルシ) ・林野庁森林調査区(1ha)</p>	<p>■ 既存の侵入防護柵の維持・補修 概要: 既存侵入防護柵の巡視及び補修 場所: 幌別ー岩尾別地区 事業時期: 通年 実施主体: 林野庁、斜里町 (既存侵入防護柵) ・幌別地区林野庁森林調査区(1ha) ・岩尾別カシワ林林野庁森林調査区(林野庁H20, 21, 22設置)(3.55ha) ・しれとこ100平方メートル運動地内の各種侵入防護柵</p> <p>■ 樹皮食い防止対策の実施 概要: ポリエチレン製ネットによる既存単木保護木(オヒョウ、イチイ、ミズキ、アオダモ等、計約800本)の補修等 場所: 幌別ー岩尾別地区(「100平方メートル運動の森・トラスト」(斜里町)) 事業時期: 春～秋 実施主体: 斜里町</p>	<p>■ ウトロ市街地侵入防護柵の維持管理を含めた被害対策 概要: ウトロ市街地を取り囲む侵入防護柵(延長距離4.1km)の維持管理および被害対策(柵内のシカの除去を含む) 場所: ウトロ市街地 事業時期: 通年 実施主体: 斜里町</p> <p>■ 既存の侵入防護柵の維持・補修 概要: 既存侵入防護柵の巡視及び補修 場所: ウトロ地区(イチイ林木遺伝資源保存林) 事業時期: 通年 実施主体: 林野庁</p>
越冬環境 改変			<p>■ 開拓跡の未立木地の森林化作業 概要: しれとこ100平方メートル運動地内での、開拓跡未立木地の森林化作業(植樹苗の保護育成等)を引き続き実施 場所: 幌別・岩尾別地区 事業時期: 春～秋 実施主体: 斜里町</p> <p>■ 道路法面牧草面積の拡大抑制 概要: 工事実施にあたっての協議や許認可の際に、新たな牧草面積の拡大を可能な限り抑制するよう指導に努める 場所: 特に国立公園内のシカ越冬地周辺の道路沿い 事業時期: H28シカ年度は要指導案件なし 実施主体: 環境省</p>	
個体数調整		<p>■ 仕切柵の維持管理 概要: 仕切柵の維持管理 場所: 知床岬 事業時期: 通年</p> <p>■ 密度操作事業 概要: 春期および越冬期におけるシカの捕獲 場所: 知床岬 事業時期: 平成28年6月、平成29年3, 5月 実施主体: 環境省</p>	<p>■ ルサー相泊地区における密度操作事業 概要: 越冬期におけるシカの捕獲 場所: ルサー相泊地区 事業時期: 平成28年12月～平成29年4月 実施主体: 環境省</p> <p>■ 幌別ー岩尾別地区における密度操作事業 概要: 越冬期におけるシカの捕獲 場所: 幌別ー岩尾別地区 事業時期: 平成28年12月～平成29年5月 実施主体: 環境省</p>	<p>■ 銃による個体数調整捕獲 (羅臼市街周辺ー羅臼町、ウトロ高原ー斜里町、真鯉地区ー林野庁)</p> <p>■ 罠いワナによる個体数調整捕獲(ウトロ・真鯉地区ー斜里町、林野庁)</p> <p>■ くくりわなによる個体数調整捕獲(羅臼峯浜町ー羅臼町)</p> <p>■ 狩猟による密度操作(北海道)</p>

H28シカ年度実行計画(モニタリング調査)一覧

	調査項目	遺産地域		隣接地域		
		エゾシカA地区	特定管理地区(知床岬)		エゾシカB地区	
植生	詳細調査	植生回復調査	<ul style="list-style-type: none"> ■亜高山高茎草本群落侵入防護柵(20×20m)内外 ■ガンコラン群落侵入防護柵(15×15m)内外 ■山地高茎草本群落侵入防護柵 概要:植生の回復状況を調査 時期:8月 実施主体:環境省	<ul style="list-style-type: none"> ■幌別・岩尾別:100平米運動地各種侵入防護柵内外 概要:植生の回復状況を調査 時期:8月 実施主体:斜里町		
		個体数調整対象地域シカ採食圧調査	<ul style="list-style-type: none"> ■知床岬台地上ササ調査区 概要:ササ高・被度を調査し採食圧を把握。 時期:9月 実施主体:環境省	<ul style="list-style-type: none"> ■ルサー相泊地区固定調査区モニタリング調査 概要:平成23年に設定した固定調査区のモニタリング調査 時期:9月 実施主体:環境省	<ul style="list-style-type: none"> ■幌別・岩尾別地区固定調査区モニタリング調査 概要:平成24年に設定した固定調査区のモニタリング調査 時期:8月 実施主体:環境省	
	広域的調査	シカ採食圧広域調査	<ul style="list-style-type: none"> ■東岳シレットコスミレ採食状況調査 概要:シレットコスミレの株数・採食痕調査 時期:7月 実施主体:環境省	<ul style="list-style-type: none"> ■広域採食圧調査 概要:植生調査(草本含む)、被食状況調査 知床岬地区、ルサー相泊地区、幌別・岩尾別地区 時期:8月 実施主体:林野庁	<ul style="list-style-type: none"> ■海岸(羅臼側)植生・採食圧調査 概要:ウナキベツ地区における海岸植生調査 時期:9月 実施主体:環境省	
		在来種分布調査 植生調査				
エゾシカ個体数・個体数指数	詳細調査	シカ生息動向調査	<ul style="list-style-type: none"> ■航空カウント 概要:ヘリからの越冬個体数把握 時期:2月 実施主体:環境省	<ul style="list-style-type: none"> ■ルサー相泊:ライトセンサス 概要:ライトセンサス調査(岩見橋～相泊:調査距離10.2km) 時期:春、秋 実施主体:羅臼町	<ul style="list-style-type: none"> ■ウトロ・真鯉:日中センサス 概要:日中センサス(調査距離約10km) 時期:1～3月 実施主体:知床財団	
		自然死亡状況調査		<ul style="list-style-type: none"> ■幌別・岩尾別:ライトセンサス 概要:幌別・岩尾別地区のライトセンサス調査(調査距離9.5km) 時期:春、秋 実施主体:斜里町	<ul style="list-style-type: none"> ■羅臼町峯浜:ライトセンサス 概要:ライトセンサス(調査距離約10km) 時期:10月下旬 実施主体:北海道	<ul style="list-style-type: none"> ■真鯉、春苺古丹:カメラトラップ 概要:3～4kmの範囲内に各6台の自動撮影装置を設置 時期:真鯉(オペケブ林道)6、9月、春苺古丹林道7、10月 実施主体:林野庁
	広域的調査	越冬群分布調査	<ul style="list-style-type: none"> ■知床半島全域:広域航空カウント 概要:ヘリからの越冬個体数把握 時期:平成29年2月 実施主体:環境省	<ul style="list-style-type: none"> ■幌別地区の一部:地上追い出しカウント 概要:ヘリからの見落とし率算出 時期:平成29年3月 実施主体:環境省		
		季節移動調査	<ul style="list-style-type: none"> ■ルシャ地区季節移動調査(3年目) 概要:GPS首輪装着済み14頭の行動圏を把握(1頭は脱落もしくは死亡疑い) 時期:通年 実施主体:環境省	<ul style="list-style-type: none"> ■行動圏・季節移動調査 概要:GPS首輪を装着した個体を追跡して行動圏を把握(幌別・岩尾別) 時期:通年 実施主体:知床財団	<ul style="list-style-type: none"> ■行動圏・季節移動調査 概要:GPS首輪を装着した個体を追跡して行動圏を把握(真鯉) 時期:通年 実施主体:知床財団	
土壌浸食	詳細調査	土壌浸食状況調査				
	広域的調査	土壌浸食状況広域調査	■土壌浸食状況の広域モニター(当面は広域採食圧調査の中で、林床の裸地面積等の変動を調査することで簡易的に把握)			
生態系への影響	詳細調査	陸生鳥類生息状況調査				

	知床半島エゾシカ保護管理計画 計画期間		第1期		第2期				備考		
	実行計画		H22シカ年度	H23シカ年度	H24シカ年度	H25シカ年度	H26シカ年度	H27シカ年度		H28シカ年度	
A 知床岬	I.航空カウント調査 (モニタリングユニット M00)	上段:発見頭数(≒実数?)	246 76.9	265 82.8	第1段階目標: 5頭/km2以下 35頭/7km2(16頭/3.2km2)以下				88 27.5	1~2月(捕獲実施前)に実施 対象範囲=モニタリングユニット M00:約3.2km2 旧第1段階目標:1980年代レベル (知床岬先端部のみの航空カウントで5頭/km2以下)	
		下段:発見密度(頭/km2) (上段値÷3.2km2)									
	II.捕獲頭数 (M00)	目標	—	—	45 (航空カウント値の80%)	30 (航空カウント値-29)	110 (航空カウント値-29)	34 (航空カウント値-29)	51		自然増加率0.2とする。翌年の捕獲前生息数35頭以下となる数(～H28)。第3期中に16～32頭以下となる数(H29～)
		実績 (うちメス成獣)	57 (20)	216 (133)	32 (4)	9 (2)	88 (43)	10 (2)	37 (9)		6月分の捕獲実績は前シカ年度分に含めた
	III.捕獲後推定値	上段:推定生息頭数 下段:推定生息密度(頭/km2)	189 59.1	49 15.3	43 13.4	78 24.4	51 15.9	47 14.7	51 15.9		
捕獲手法・検討事項		○ヘリによる厳冬期捕獲	○仕切柵設置 ○仕切柵を活用した捕獲 ヘリ1回、船2回	○仕切柵を活用した捕獲 ヘリ1回、船1回	○仕切柵を活用した捕獲 船2回	○仕切柵を活用した捕獲 ヘリ1回、船4回(うち2回は無 雪期の宿泊捕獲)	○仕切柵を活用した捕獲 ヘリ1回、船2回(無雪期の宿 泊捕獲)	○仕切柵を活用した捕獲 ヘリ1回、船2回(うち1回は無 雪期の宿泊捕獲)	H19シカ年度～個体数調整開始 H23シカ年度 仕切柵設置 広島の知床岬地区(U-01+1)でのヘリシカ発見密度5頭/km2以下が旧第2段階目標		
B ルサ 相泊	知床半島エゾシカ保護管理計画→管理計画 計画期間		第1期		第2期				備考		
	実行計画		H22シカ年度	H23シカ年度	H24シカ年度	H25シカ年度	H26シカ年度	H27シカ年度		H28シカ年度	
	I.航空カウント調査 (モニタリングユニット R13)	上段:生息頭数(指数)	156 8.72	—	第1段階目標: 89以下(R13-U13s) 5以下				第1段階目標(高標高*含む): 123以下(R13) 5以下		面積(モニタリングユニット R13)=24.68km2 * R13-U13s(6.81km2)= 17.87km2 旧第1段階目標:5頭/km2(ヘリ発見密度)
		下段:ヘリ発見密度(指数) (頭/km2)									
	II.ライトセンサス	秋 個体数指数(頭/km)	12.1	11.4	4.0	2.3	2.9	0.8	70 2.84*	調査距離10.2km ショウジ川～アイダマリ川	
		春 個体数指数(頭/km)	19.4	9.5	13.2	6.2	5.5	5.4	災害→距離短縮	調査距離10.2km ショウジ川～アイダマリ川	
III.標識再捕獲法によるメス成獣推定個体数(捕獲後春)		327.7±94.2	184.0±46.5	—	—	—	—	—			
IV.捕獲頭数	目標	—	—	300	220	215	210	20+α			
	実績	125	188	78	208	88	79	13			
捕獲手法・検討事項		○囲いワナ1基 ○定点SS	○囲いワナ2基 ○巻狩り ○流し猟式SS	○囲いワナ1基 ○流し猟式SS	○囲いワナ2基 ○流し猟式SS	○囲いワナ1基 ○流し猟式SS	○囲いワナ2基 ○流し猟式SS	○囲いワナ1基 ○くくりワナ (更にR12で ○船捕獲)	H21シカ年度～個体数調整開始		
C 幌 岩尾別	知床半島エゾシカ保護管理計画 計画期間		第1期		第2期				備考		
	実行計画		H22シカ年度	H23シカ年度	H24シカ年度	H25シカ年度	H26シカ年度	H27シカ年度		H28シカ年度	
	I.航空カウント調査 (モニタリングユニット S04)	上段:生息頭数(指数)	1257 43.2	—	第1段階目標: 360以下 12.4以下				第2段階目標: 145以下 5以下		面積(モニタリングユニット S04)=29.08km ² 旧第1段階目標:2003年水準ヘリカウント値 旧第2段階目標:5頭/km2(ヘリ発見密度)
		下段:ヘリ発見密度(指数) (頭/km2)									
	II.ライトセンサス	秋 個体数指数(頭/km)	8.5	7.8	3.6	2.7	2.3	2.9	1.6	調査距離 岩尾別:4.5km 幌別:4.9km 合計9.4km	
		春 個体数指数(頭/km)	11.8	4.5	6.6	9.7	3.9	9.1	5.1	調査距離 岩尾別:4.5km 幌別:4.9km 合計9.4km	
III.捕獲頭数	目標	—	—	1,060	400	165	130	100			
	実績	0	452	418	207	177	106	102			
捕獲手法・検討事項			○囲いワナ1基 ○くくりワナ ○流し猟式SS(冬)	○囲いわな1基 ○流し猟式SS (秋・冬・春)	○囲いワナ2基 ○流し猟式SS(冬) ○大規模囲い柵	○囲いわな2基 ○流し猟式SS(1箇所) ○大型囲い柵 ○狙撃	○囲いわな1基 ○流し猟式SS(1箇所) ○大型囲い柵	○囲いわな1基 ○箱わな ○流し猟式SS(冬・春) ○大型囲い柵 ○狙撃	H23シカ年度～個体数調整開始 H25シカ年度 岩尾別地区大規模囲い柵整備		

実施結果位置図

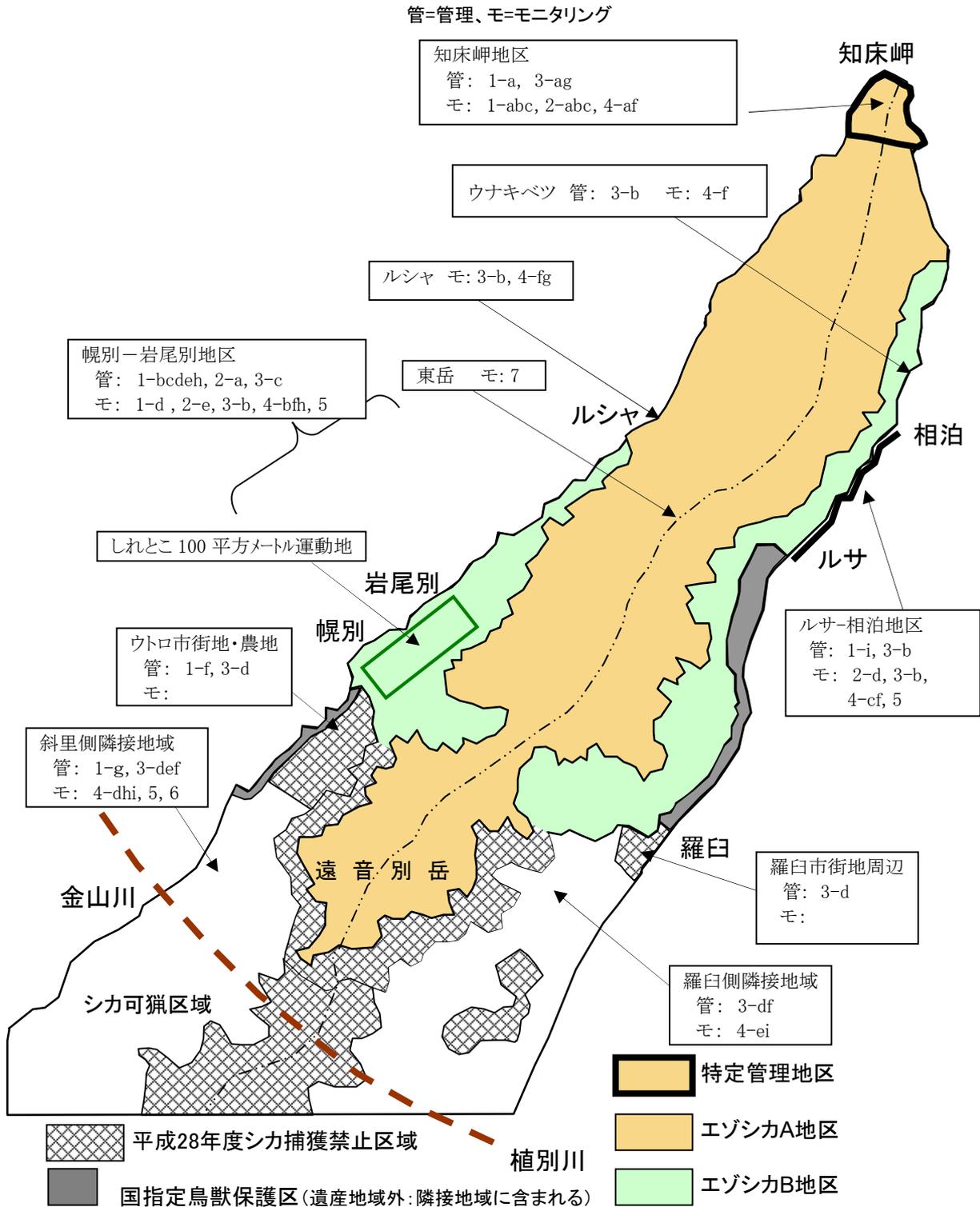


図 2-1-1. 関連地域における管理事業・モニタリング事業の位置。番号・記号は本文に対応。
(対象地が広範に分布するものについては記載せず)

管理事業 (特=特定管理地区、A=エゾシカ A 地区、B=同 B 地区、隣=同 隣接地域)

1. 防御的手法

a. 知床岬侵入防護柵管理(特: 環境省・林野庁)

H28 年 6 月 19 日に補修を実施。

b. 幌別侵入防護柵管理(B: 林野庁)

H28 年 8 月、10 月、11 月に踏査するが問題箇所なし。

c. 運動地侵入防護柵管理(B: 斜里町)

・既存各防護柵において老朽化した支柱の交換等の補修を実施。

d. 岩尾別川河畔林侵入防護柵設置(B: 斜里町)

・夏季に台風の影響で柵の一部が破損したが、修繕済み。

e. 運動地樹皮ネット管理(B: 斜里町)

・劣化したネットの巻き直し等、既存保護木の維持作業を実施。

f. ウトロ市街地侵入防護柵管理(隣: 斜里町)

・冬季の雪圧や倒木による柵の歪みが 2 カ所あり、補修予定。

g. イチイ遺伝資源保存林侵入防護柵管理(隣: 林野庁)

・H28 年 6 月、10 月に補修作業を実施。

・H29 年 5 月に踏査、6 月に補修作業実施予定。

h. 岩尾別カシワ林侵入防護柵設置(B: 林野庁)

・H28 年 5 月に踏査するが問題箇所なし。

i. ルサー相泊の侵入防止電気柵管理(B: 羅臼町)

・H27 年までにキキリベツから相泊の約 8km 区間および羅臼市街地の南北に電気柵を設置。維持管理を実施。主な目的はヒグマの侵入防止だが、エゾシカにも効果あり。

2. 越冬環境改変

a. 運動地森林化作業(B: 斜里町)

・防鹿柵内外への中型～大型苗の植え替え等を実施。

b. 道路等法面牧草面積の抑制(環境省)

・H28 年度は新たな牧草法面を造成しない、現地表土を使用する指導を行った工事案件は無し(工事の提案段階で既に現地表土を使用する施工案になっていることが多い)。

3. 個体数調整

a. 知床岬 個体数調整事業(特: 環境省)

・H28 年 6 月に船で岬入りし、宿泊を伴う捕獲を 1 回実施、1 頭を捕獲。H29 年 3 月にヘリコプターで岬入りし宿泊を伴う捕獲を 1 回、H28 年 5 月に船で岬入りし宿泊を伴う捕獲を 1 回、日帰り捕獲を 1 回実施。合計 4 回の捕獲作業で、H29 年 5 月末までに計 38 頭を捕獲。

b. ルサー相泊地区 個体数調整事業(B:環境省)

- ・ルサ川左岸の囲いわなで、H29年1月～3月に2頭を捕獲。
- ・ルサ川河口周辺のくくりわなで、H29年1月～3月に11頭を捕獲。
- ・2つの捕獲方法により、計13頭を捕獲した。
- ・相泊以北(クズレハマ川以北:ルサー相泊地区の北側に隣接するウナキベツ地区)の、港の無い海岸線において船舶を使用した狙撃による捕獲をH29年2～4月に9回実施し、計66頭を捕獲。

c. 幌別-岩尾別地区 個体数調整事業(B:環境省)

- ・岩尾別地区の仕切柵を囲いわなとして使用し、H29年1～5月に計13頭を捕獲。
- ・幌別川河口の囲いわなでH29年1～3月に計19頭を捕獲。
- ・岩尾別橋から岩尾別川河口までの約0.6kmの通路沿線で流し猟式シャープシューティングをH29年2～3月に11回実施し、計26頭を捕獲。
- ・岩尾別川河口に2基、幌別地区に2基の箱わなを設置し、H29年1～3月に計35頭を捕獲。
- ・岩尾別地区において餌付け誘引による狙撃をH29年4月に2回実施し、計1頭を捕獲。
- ・しれとこ100平方メートル運動地の作業道沿線で流し猟式シャープシューティングをH29年5月に3回実施し、計8頭を捕獲。
- ・6つの捕獲手法により、計102頭を捕獲した。

d. 銃による個体数調整(隣: 斜里町、羅臼町、林野庁)

- ・斜里町ではH28年6月～H29年3月にウトロ高原農地で33頭、H28年6～9月に半島基部農地で56頭捕獲した。H29年4～5月は、まだ報告なし。
- ・羅臼町では町有林における巻き狩りと流し猟により、H28年6月に14頭、H29年1～3月に67頭、計81頭を捕獲(羅臼町及び町鳥獣被害防止協議会)。
- ・林野庁では、H28年3月に、斜里町遠音別において遠距離狙撃で6頭、モバイルカリングで6頭捕獲。
- ・羅臼町では、H28年12月に海岸町において、麻酔銃で1頭捕獲。

e. 銃器以外による個体数調整(隣: 斜里町、羅臼町、林野庁)

- ・林野庁では、H29年1～4月に、ウトロにおいて囲いわな4基で47頭、遠音別において囲いわな2基で29頭、真鯉において囲いわな1基で1頭、箱わな3基で10頭捕獲。以上には職員実行を含む。
- ・斜里町、林野庁及び(株)知床エゾシカファームで協定を結んだ囲いわな(三段滝)では、H28年12月～H29年4月に10頭捕獲。

f. 狩猟(隣: 北海道、林野庁)

- ・斜里町内の隣接地域において狩猟での効率的な捕獲を検討するため、可猟期間に中断期間を設定した。結果はとりまとめ中(北海道)。
- ・斜里町遠音別の林道2路線について可猟期間中に除雪を行い、一般狩猟者による捕獲

を支援した(林野庁)。

g. 仕切柵の維持管理(特:環境省)

- ・知床岬の捕獲支援用仕切柵の破損箇所の確認および補修作業を実施。
- ・H28年6月に破損箇所の補修を実施。
- ・H29年5月に破損状況の確認を実施。今後破損箇所を補修予定。

モニタリング調査(特=特定管理地区、A=エゾシカA地区、B=同B地区、隣=同隣接地域)

1. 植生回復

a. 知床岬 亜高山高茎草本群落侵入防護柵(羅臼側トリカブトフェンス)(特:環境省)

- ・柵設置から12年が経過し、柵内では一時増加したオオヨモギだが、近年再び減少しつつある傾向。
- ・柵外の対照区では不嗜好植物のトウゲブキが優占している状況が続いていたが、やや減少する傾向にあり、本来の植生が回復する兆しがみられた。

b. 同 ガンコウラン群落侵入防護柵(アブラコ湾風衝地)(特:環境省)

- ・柵設置から13年が経過。柵内のガンコウランは順調に回復しており、28年度の平均被度は60%に達した。植生高が急上昇したが、ハマニンニクの新規出現による影響。
- ・柵外では、ガンコウランの平均被度は減少したが、植被率は増加していた。

c. 同 山地高茎草本群落侵入防護柵(エオルシ)(特:環境省)

- ・柵設置から13年が経過。回復した植生が密生している状態が維持されている。
- ・種ごとに増減傾向は異なり、オオヨモギの被度は今まで増加傾向にあったが、今年度はやや減少。
- ・セリ科草本の回復の傾向は全体的に鈍い。柵内に侵入するヒグマによる採食の影響を受けている可能性あり。

d. 幌別一岩尾別100平米運動地各種侵入防止柵内外(B:斜里町)

- ・運動地全体では、各所にてこれまで目につくことがなかった実生や草本の姿を確認する機会が増加している。
- ・柵外に試験的に植栽した20本の大型苗は、夏季に6本の樹皮の被食を確認した。

e. カシワ林内外侵入防止柵内外(B:林野庁)

- ・H28年調査なし。

f. 幌別地区侵入防止柵内外(B:林野庁)

- ・H28年調査なし。

g. 知床岬地区侵入防止柵内外(特:林野庁)

- ・H28年調査なし。

2. 個体数調整事業対象地域植生調査

固定調査測線上のイネ科草本の現存量、ササ群落の高さ・被度、林縁部の葉量などの変化について継続調査した。

a. 知床岬地区 林縁部の葉量分布の追跡調査区(特: 環境省)

- ・高さ 50cm の階層ごとの木本葉量について、200m ライン 2 本で調査。
- ・高さ 200cm 以下の階層の葉量は、調査範囲が固定されていなかったため厳密には比較できないが H27 年度に大幅に減少し、H28 年度はやや増加した。

b. 同 ササ調査区(特: 環境省)

- ・100m ライン 3 本の 18 箇所ですササ類などの被度と高さを追跡調査。
- ・ササ類の平均高は回復傾向にあり 2014 年以降安定していたが、2016(H28) 年度には大きく増加した。

c. 同 イネ科草本等調査区(特: 環境省)

- ・金属柵と固定調査ラインを用いてイネ科草原の植生の回復と採餌量の変化を調査。
- ・柵内外ともクサフジの被度が減少し、エゾイラクサの被度が増加傾向した。

d. ルサー相泊地区エゾシカ個体数調整による効果モニタリング(B: 環境省)

- ・ルサー(ルサー、熊岩)、瀬石(昆布浜)、相泊の 3 地区で植生調査及び採食圧調査を実施。
- ・植生遷移による草地の消失や道路通行止め等のため、瀬石や相泊では予定していたすべての調査を行うことができなかった。
- ・エゾシカによる食痕や糞、足跡などの痕跡が極めて少なくなっていた。
- ・草原植生では金属柵外では、草量は経年的な増加傾向は認められなかった。

e. 幌別-岩尾別地区エゾシカ個体数調整による効果モニタリング(B: 環境省)

- ・幌別-岩尾別地区内の 3 箇所です植生調査及び採食圧調査を実施。
- ・草原植生では、金属柵内外の草量が概ね増加傾向にあるが、推定採食量はあまり減少していない。

3. 広域採食圧調査

a. 高標高植生調査(A: 環境省)

- ・高山帯 4 エリア(遠音別最終調査 H23 年、羅臼湖同 H25 年、知床連山同 H24 年、知床沼同 H25 年)では 5 年間隔で実施。
- ・今年度の対象調査区は遠音別岳地区であったが、度重なる台風による自然災害等の影響で調査を実施できず。

b. 広域採食圧調査(特+A+B+隣: 林野庁、環境省)

- ・森林固定調査区 70 プロットのうち、相泊、サシルイ、知西別、春苺古丹、ルシャ、五湖、宇登呂、横断道、真鯉の 9 地区、合計 20 プロットで下枝、稚樹、林床植生等を調査。
- ・高さ 0.5~2.0m のブラウジングラインの下に該当する広葉樹の下枝量は減少していたが、小径木が枯死するという林分の変化によると思われる。広葉樹の稚樹は、1か所を除いてほ

とんど増加は見られなかった。林床植生は、忌避種の合計被度が増加傾向にあった。

c. 海岸植生調査(A: 環境省)

・28年度調査なし

4. シカ生息動向

a. 知床岬 航空カウント調査(特: 環境省)

・H29年2月27日に先端部旋回撮影調査を実施し、知床岬先端部の台地上にひろがる草原上に79頭を確認。昨年度の発見数63頭から増加。オスの割合が増加。

b. 幌別・岩尾別ライトセンサス(B: 斜里町)

・H28年秋は幌別、岩尾別がそれぞれ1.6頭/km、1.5頭/kmと前年と比較し幌別、岩尾別共に減少。子連れ率(百メス比)はそれぞれ29.4、20.0となり、前年同期(47.6、24.5)から幌別、岩尾別共に減少。

・H29年春は幌別、岩尾別がそれぞれ6.7頭/km、3.3頭/km(前年同期は11.6、6.3)から減少。百メス比はそれぞれ25.0、24.0となり、前年同期(32.8、35.1)から両地区とも減少。

c. ルサー相泊ライトセンサス・日中センサス(B: 羅臼町)

・H28年秋のライトセンサスは、夏に調査区間で発生した土砂崩れによる道路通行止めのため、実施できず。

・H29年春のライトセンサスは、4月下旬に調査区間を大幅に短縮(通行止め区間を回避)して計5回実施。密度指標値3.5頭/km、百メス比は12.8であったが、どちらも参考値。

d. 真鯉 日中センサス(隣: 知床財団)

・H29年1~3月の狩猟中断期間または狩猟期終了後に計4回実施。3月26日の確認数が最大、計121頭(10.1頭/km)。前年の最大数(2/12に192頭、16.0頭/km)から減少。

e. 羅臼峯浜ライトセンサス(隣: 北海道)

・H28年10月28日に猟友会羅臼部会が実施(北海道から北海道猟友会への委託業務)。

・牧草地コース5.1頭/km、森林コース0.1頭/km(H27年はそれぞれ3.4、0.8)。

f. ヘリコプターによる航空カウント調査(A・特・B: 環境省)

・H29年2月27~3月5日の期間中6日間に遺産地域内(計10区画)を調査し、139群747頭を発見。下記の括弧内のM00などはモニタリングユニットを示す。

・知床岬地区(M00): 88頭(前年比54%増、+31頭)

・ルサー相泊地区(R13): 70頭(前年比50%減、-71頭)

・幌別-岩尾別地区(S04): 134頭(前年比24%減、-42頭)

・ルシャ地区(S02): 277頭(前年比16%減、-54頭)

・H29年3月13日に幌別-岩尾別地区の一部(0.75km²:プユニ岬周辺)で、33名の調査員による地上でのドライブセンサス(追い出し法)を実施し、141頭をカウント。前日(3月12日)の通常の航空カウント法による同一エリアのカウント結果(22頭)と比較し、針葉樹被覆の多い当該エリアにおける航空カウント調査の見落とし率の数値(84.4%)を得た。

g. ルシヤ地区季節移動調査(A: 環境省)

- H26 年 6～11 月および H28 年 5 月上旬に GPS 首輪を装着した計 14 頭のエゾシカ(メス成獣)の行動を追跡調査。1 頭が H28 年 6 月に羅臼側のルサ川上流や岬町地区と、ルシヤ地区との間を 2 往復した。当該個体の 6 月以外の時期および残り 13 頭は、ルシヤ地区内の狭い範囲に通年定着していた。
- 14 頭のうち 1 頭の首輪が H29 年 4 月初旬に脱落、6 月に回収済み。

h. 行動圏調査(B・隣: 知床財団)

- H27 年 2 月に GPS 首輪を装着し、同年の夏に電池切れとなった 2 頭のエゾシカ(メス成獣)の囲いわな・箱わなによる再捕獲・首輪回収を前年度にひきつづき試みたが、捕獲できなかった。

i. 真鯉・春苺古丹カメラトラップ調査(隣: 林野庁)

- 斜里町真鯉のオペケプ林道(H28 年 6, 9 月)と羅臼町の春苺古丹林道(H28 年 7, 10 月)に各 6 台の自動撮影カメラを設置し、エゾシカの出現状況を調査した。

5. シカ自然死亡 ルシヤ・知床岬・幌別一岩尾別・ルサー相泊・真鯉(全域: 知床財団)

- H28 シカ年度は知床岬、ルシヤにおいてエゾシカの自然死体調査は実施しなかった。
- H28 シカ年度に斜里町及び羅臼町の業務において確認された自然死亡は以下。
 - 幌別一岩尾別: 0 体
 - 真鯉: 0 体
 - ルサー相泊: 0 体

6. エゾシカ捕獲個体の体重等データ収集体制の確立(B+隣: 環境省、林野庁)

- 環境省及び林野庁が知床で捕獲したシカについて、エゾシカ利活用施設において体重、後足長の計測および妊娠の有無等を確認するとともに、下顎骨を採取し、知床財団に引き渡す体制を継続(3 年目)。

7. シレットコスミレモニタリング調査(A: 環境省)

- H28 年 6 月 30 日に調査を実施。159 株を確認したが、エゾシカによる新たな被食株の発見なし。

8. 鳥類相モニタリング調査(A: 酪農学園大学)

- 知床岬および幌別一岩尾別地区で H26 年繁殖期に録音調査を実施。結果は投稿準備中。
- H28 年は調査実施なし。